

令和8年度 スクール・エンパワーメント推進事業
言語能力をはぐくむモデル校 大阪府教育センター支援

ことばの力を育み主体的に学ぶ子どもの育成



松原市立松原北小学校

校内授業研究会

4年生「ごんぎつね」

大阪府教育センター
カリキュラム開発部 小中学校教育推進室

R8 言語能力をはぐくむモデル校

指導計画(全 11 時間)

次	時	学習内容
1	1	●課題をつかむ ・「はしのうえのおおかみ」の内容を確認し、後の物語を考える。 ・「はしのうえのおおかみ」では、中心人物の心情の変化を基に、後の物語を書く。
	2	●「ごんぎつね」の題名や挿絵を見て、どんなぎつねが出てくるかを想像する。 ・「いいきつね」か「悪いきつね」かを問い、ごんの人物像について想像する。 ●「ごんぎつね」の範読を聞き、感想をノートに書く。 ・範読を聞きながら、分からない言葉や気になる言葉や文に線を引く。 ・上記を共有する。 ・「いいきつねと思ったところと理由」や「悪いきつねと思ったところと理由」、「兵十の気持ちの変化と理由」という観点で感想を交流する。 ◎ここでの児童の読みの「ずれ」を次時につなげる。 ・ごんがおっかあを殺したと思っている。 ・いいきつねなのかわるいいきつねなのか。 ・兵十がごんを殺せて喜んでいる。 ●単元のめあてと学習計画を確認する。 ・「白いぼうし」をふりかえりながら「ごんぎつね」をどのように読んでいくかについて考える。
	3	●作品全体の流れを確認する。 ・挿絵をバラバラに並べ、物語の流れを確認する。 ・センテンスカードを使用し、流れを確認する。また、前時の児童の読みの「ずれ」を基にした「ダウト文」を入れて確認する。 ・ごんはおっかあを殺したつぐないに、まず一ついいことをしたと思いました。 ・ぶらぶらいたずらに出かけました。
	4	●ごんの心情を情景描写から捉える。 ・前時で使った、センテンスカードを使用し、情景描写が必要かどうかを考える。 ・情景描写があることで中心人物の心情を表現できることを知る。 ●他の場面で情景描写を探し、その効果を考える。 ・全員で考えた情景描写を基に、他の場面で使われている情景描写を探す。 ・見つけた情景描写が前後の関係からどのような心情を表しているのかを再確認する。
2	5	●ごんの人物像を捉える。 ・「いいきつね」か「悪いきつね」か話し合う。どちらかに決めきれない児童には「両方」という選択肢も提示する。 ●どこで心情の変化が起きたのか、叙述を基にきっかけを考える。 ・センテンスカードを基に一枚ずつ「いいきつね」か「悪いきつね」かを判断する。 ●ごんがいたずらをする理由を考える。 ・ごんのいたずらの理由が人を困らせたい・遊び半分だけではないことに気付く。

	6	●前時の振り返り ・前時の振り返りをし、どの場面でごんの心情が変化したのかを確認する。 ●ごんがつぐないをしようとしたきっかけについて考える。 ・なぜつぐないをしようとしたのかを「いわし屋」がでてくる場面を基に考える。 ●ごんがつぐないを通して、兵十に伝えたい思いを読み取る。 ・ごんがつぐないを通して、兵十に伝えたい思いについて自分の考えを書き、交流する。選択肢から思いを選べるようにする。
	7	●兵十の心情の変化について考える。 ・はじめの兵十の心情と、最後の兵十の心情には違いがあることを知る。 ・6場面だけ兵十目線で書かれていることを確認し、兵十目線だからこそ、ごんの「よさ」に気付けたことを押さえる。
	8	●兵十は、ごんとの出来事を誰かに伝えたのかを話し合う。 ・「ごんぎつね」は伝承されている話ということに気付く。 ・ごんとの一連の出来事をだれに伝えたのかを想像し、理由を書く。(加助・茂平さん・日記などの選択肢から選ぶ) ・伝えられた人たちが「ごんのよさ」について伝え続けていることに気付く。
3	9	●兵十がごんのことを撃った後、誰にどのように伝えたのかを想像して、物語文を基にして後の物語を考える。 ・ごんのことを撃った後、誰に伝えるかどうかを考える。 ・理由とともに伝える文をワークシートに書く。 ・物語を書くとき・交流するときの視点を確認する。「兵十の気持ちの変化」や「兵十が分かる話かどうか(ごんしか分からない話はNG)」 (・情景描写を入れる。情景描写とは何だったかをふりかえる。選択肢の中から選べるようにする。)
	10 (本 時)	●交流する視点を確認する。 ・ごんにしか分からない話が入った文から兵十視点で確認する。 ・「兵十の気持ちの変化」や「兵十が分かる話かどうか(ごんしか分からない話はNG)」の視点の確認をする。 ●創作した物語を交流する。 ・交流するときには、視点を参考に交流する。 ・良いところを付箋に書き、交流する。
	11	●前時の交流を基にして、物語を清書する。 ・交流の視点を再確認する。

本時の学習過程

松原北小学校作成

時間	学習内容・学習活動	◇ 指導上の留意点 ☆ 支援が必要な児童(生徒)への手だて
1 0 分	●前時までの学習を振り返る。 ・交流する視点を確認する。 ●教師が作った、ごん視点の多い物語を読み、不自然さに気付く。 ・視点を基に物語を読み、交流することを確認する。	◇前時の内容とつなげて考えさせるために、教師の物語の内容を一緒に確認する。 ☆あらかじめ不自然な所に線を引いておく。
2 5 分	●物語を交流する。 ・友達の物語を黙読する。 ・付箋で、視点を基に交流する。 ・付箋を色分けして「いいポイント」「改善ポイント」を視覚化する。	◇交流する視点を再確認する。 ☆付箋に書くことができない児童には、色分けした付箋を貼るだけに留める。 ☆机間指導の際には、交流する視点が分かりにくい児童には、線を引いているところを中心に読むことを伝える。 ◇友達の物語を読み、交流することで、自分の物語もよりよいものにできるように促す。
1 0 分	●振り返りとして、自分の物語を整理する。 ・青鉛筆で追記する。 ・次時の見通しをもつ。	◇本時の学びを基に、自分の物語へ向かって、自己調整するために、必要だと思う情報を青鉛筆で加筆するように促す。 ☆数人の児童に、追記した箇所とその理由を説明させ、振り返る見通しをもたせる。

4年2組 第10時

まもなく授業研が始まります。





9月

25日

ごんぎつね

新美 南吉

物語のその後について人物の心情の変化をもとに想像して考えよう。

作品を交流して友達との文のよい所を見つけよう。

どこがどうよいか？

ごんを打ったその日の夜、兵十はなやみながら、加助に会いに行きま
す。ふがかかっている夜でした。
兵十：「そうそう、なあ加助。」
「ああん。」
「今日の昼間に、ごんが家に入ってきたから打って殺してしまっ
たんだ。でも、ごんはいたずらをしに来たんじゃなくて、くり
をとどけてくれていたんだ。」
「そうだったのか。それはかなしいな。」
「そうなんだよ。いたずらしに来たとかんちがいをしてしまったん
だよ。でも、ごんもひとりぼっちでさみしかつたんだ。だから、
よく村に来てたんだ。」
「じゃあ、村のみんなにもごんが一人ぼっちだったと伝え
ないといけないな。」



ごんぎつね⑧ 名前（

●自分なりに、その後の話を創作してみよう。



—

このワークシートは

第9時に作成しました。

本時でさらに深めていきます。

◎絶対いれること

① 誰に伝えたか。
② 地の文・会話文
③ 様子を表す言葉

○自由に想像すること

① いつ伝えたか。

② 天気

③ 伝えたい思い

※注意点

- ①話がそれない。
- ②ごん目線にならない

ワークシートの内容を深める子どもたち と 「深い学び」みるみるシートを片手に授業観察する教師たち



授業観察シート

「深い学び」みるみるシート 名前【 】

本年度の研究テーマ 共にことばの力を育み主体的に学ぶ子ども
～めあてにせまるしかけづくりの授業～

9/25(金) 4年 2組 国語「ごんぎつね」

単元名: 登場人物の気持ちの変化を読み取る。

指導事項: 友達の創作した物語を、交流する視点を基に、良いところを伝えること
【主体的に学習に取り組む態度】

子どもの変容

教師のはたらきかけ
（「しかけ」の活用を含む）

「深い学び」と言える理由

「深い学び」を導くためのポイント

「深い学び」みるみるシート(例)



10/1(木) 4年1組 国語「ごんぎつね」

単元名: 気持ちの変化に着目して読み、感想を書こう。

指導事項: 登場人物の気持ちの変化や性格、情景について、場面の移り変わり結び付けて具体的に想像すること。

【思判表C(1)エ】



子どもの変容

【●●さん】

ずっと同じ場面を読んで「ごんは嬉しかった」と考えて止まっていたが、前の場面を読んだりノートを見返したりしながら再思考し始めた。そして、既習の内容から、ごんの兵十への思いの高まりを確認し、「嬉しさもあったけど、もっと兵十に近づきたかったという思いもある」と考えを変えた。



教師のはたらきかけ

【〇〇先生】

「あれ？ごんと兵十の関係は、最初の場面からずっと同じだったっけ？どうだったっけ？」と、机間指導しながら全員に聞こえるようにつぶやいた。



「深い学び」と言える理由

他の場面と結び付けたり比較したりしながら再思考を始め、考えを深めたから。



「深い学び」を導くためのポイント

既習の内容と行ったり来たりしながら考えることを促す教師の「つぶやき」や「追発問」。
(大きな発問でなくてよい)

この後、研究協議と大阪府教育センターの指導助言です。

研究協議



「深い学び」みるみるシートを使って研究します。



ワークショップも取り入れた 大阪府教育センターによる指導助言



単元づくりのステップ

順序が大切です！

- 1 単元で付けたい力を明確にして、ゴールにおける子どもたちの姿をイメージする。
- 2 付けたい力を付けるのにふさわしい言語活動を設定する。
- 3 付けたい力を付けるための指導計画と、評価規準・評価方法を設定する。
- 4 単元のまとまりを見通し、一単位時間の学習活動を設定する。

大阪府教育センター 国語の授業づくりハンドブックⅡより



国語科授業NG集



失敗したことの
ない人間は、
挑戦をしたことの
ない人間さ。
(by Einstein)

NG ただただ活発に意見が飛び交う授業を求めている。
→ **子どもが目標に向かっているか、常に確認を!**

NG 子どもが考える時間よりも、先生が話している時間の方が長い。
→ **子どもが考える時間を保証し、価値ある静寂を!**

NG 子どもの意見をすぐに肯定して受け取っている。
→ **深い思考の促す「問い返し」を!**

NG 黒板に子どもの意見をただ羅列的に書き留めている。
→ **明確な役割をもった、意図のある板書を!**

NG 目的なく活動させている。
→ **全ての活動に目的を!**

NG 作業と活動を区別していない。
→ **子どもがより深く考える活動を!**

NG 子どもが自由に学習していれば、個別最適な学びが実現していると思っている。
→ **教師の指導性の発揮を!**

NG 言語活動が目的になっている。
→ **言語活動を通して育む資質・能力の確認を!**

NG 教材の中で学びが終始している。
→ **学習方略を身に付けさせ、日常(社会)生活につなげる学びを!**

NG 子どもの表現に反応していない。
→ **子どもの表現を注意深くとらえしっかり反応を!**

NG 想像しながら授業づくりをしていない。
→ **子どもの思考や動きを想像しながら授業構想を!**

言語能力をはぐくむモデル校